

## 観音さまの遊び

人生は海を漂っているようなものです。愛欲に溺れたり、誘惑に負けたりして沈む人もあります。巨船に乗っていても、いつ大波が押し寄せてくるかわかりません。自分はしっかりとしているつもりでいても、心配の種は次々と湧いてきます。不安定な政治や、変動の激しい経済界の波に乗って、私たちは娑婆世界の荒波を浮き沈みして泳いでいるのです。社会性を有するものの宿命といえましょう。

ところで、観音さまはこの荒波の世の中を極楽の遊びと心得ておられます。観音経に、「観世音菩薩はこの娑婆世界に遊ぶ」とあります。弘法大師は、「自在遊戯は即ち如来の事業威儀なり」と『法華経開題』で述べておられます。親鸞上人著作の『正信偈』にも、「煩惱の林に遊んで神通を現す」とあります。

このように、煩惱の娑婆世界にありながら、仏さまたちが楽しく遊んでおられる風景が、仏典の随所に描かれています。浄土は他国ではないのです。観音さまはこの世の遊びを肥やしにして、ご自身の修行を楽しんでおられるわけです。

遊びとは「ゆとり」のことです。車のブレーキやハンドルには、手足に強い衝撃が及ばないように、遊びがあります。機械部品の歯車には、なめらかに回転するように遊びがあります。投手は打者のねらいをさぐり、打ち気をはぐらかすために、一球をはずして遊ぶことがあります。

また、遊びには「ゆるす」という意味もあります。理屈や理性を和らげて、笑いを誘いこむ作用をはたします。遊びがなければ、意地をはったり、他人のミスが許せなくなったり、自分中心になったりします。遊びは一種の文化です。人生をゆたかに、あるいは人間関係の潤滑油として、生活に不可欠な要素であるといえましょう。